

岡山県障害者（児）施設サービス自主評価結果（公表用）

施 設 名：グループハウスひるぜん

施設所在地：岡山県真庭市蒜山上長田 2 3 0 0 番地 1

施 設 種 別：共同生活援助

運 営 主 体：社会福祉法人 慶光会

施 設 長 名：北野 正樹

評 価 月 日：令和 7 年 3 月 1 3 日

評価項目（中項目）	評価結果
I-1 理念・基本方針	評価：A 法人の理念・基本方針については年度当初の全体職員会議で周知している。 また、新入職員へは入職時に説明、新任研修にて確認を行っている。
I-2 計画策定	評価：A 法人の基本方針を基に、事業所としての事業計画を策定している。支援員会議や世話人会議にて管理者より基本方針の実現に向けた目標を伝え、取り組みを行っている。年度途中に実施状況の把握や見直しを行い、法人の基本方針の実現に向けて事業所全体で取り組んだ。
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	評価：A 管理者の役割・責任について、年度当初の会議にて職務分掌表を用いて管理者より示している。毎月の会議にて利用者支援について検討し、課題解決に向けての取り組みについて助言を行った。また、職員からの支援に対しての悩みや業務改善に向けての具体的な取り組みについて聞き取り、業務の効率化など解決に向けて取り組んでいる。
II-1 経営状況の把握	評価：B 法人の経営状況については法人本部からの情報収集や確認を行った。また、毎月開催している管理職会議でも本部からの経営状況の報告を受け、法人全体と事業所の状況把握に努めた。経営状況を参考にしながら、今後の支援、業務についての方方向性を現場職員に周知した。

Ⅱ-2 人材の確保・養成	評価：A 職員の就業状況の把握や、労働状況の改善に取り組み、働きやすい環境を整備した。 新任職員・中堅職員に対しても継続的に研修を行い、個人のスキルアップに努めている。人材確保については外部へ積極的に発信している。
Ⅱ-3 地域との交流と連携	評価：B 感染防止の観点から、福祉運動会は規模を収縮し行った。ボランティアの受け入れにあたっては、研修の開催やマニュアル化の必要性について検討が必要である。イベント開催以外の地域との関わりについては、地域清掃、地域の行事に参加するなど、外部との交流の機会を持つことができた。
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	評価：A 事業所内でケース会議を毎月行い、利用者支援について検討する場を持ち、取り組みを行った。また、全職員が人権擁護、虐待防止に関するセルフチェックを行い、その結果を基に日々の実践の振り返りを行った。その他、人権委員を中心に人権研修を行い、利用者の視点に立った支援について考える場を設けた。
Ⅲ-2 サービスの質の確保	評価：B 困難ケースなどは他事業所も含めたケアカンファレンスを開催し、関連事業所全体で検討を行った。 日々の記録と引継ぎを密にし、継続的な支援を行っているが、記録については個々に差があるため、学習会等で記録の書き方について検討する必要がある。
Ⅲ-3 サービスの開始・継続	評価：A サービス利用開始時には、契約書、重要事項説明書等の資料を提示し、サービス内容や料金についても分かりやすく丁寧に説明を行った。見学や体験利用などの希望にも対応した。
Ⅳ-1 利用者に応じた個別支援プログラム	評価：B 個別支援計画策定については、利用者・家族の要望を確認し、個別支援計画に取り入れた。定期的に日中事業所と連携し、利用者の状況を確認している。必要に応じてケア会議を開催している。
Ⅳ-2 日常生活支援サービス	評価：A 利用者の状況把握のため、ホームでの様子の確認や日中事業所への聞き取りなど行った。個々の状況に合わせて他事業所も含めたケア会議を行い、情報共有・今後の方向性など支援について関連する機関を含めて検討した。
Ⅴ-1 生活環境の整備	評価：A 居室は個室であり、くつろげる環境となるよう環境整備や備品をそろえた。利用者が安心・安全に生活できるよう今後も継続して取り組んでいく。

VI-1 緊急時の対応	評価：A 法人で災害時BCP、感染症対応BCPが策定されており、有事の際は各BCPに沿って行動できるよう整備されている。定期的に避難訓練を実施するとともに、全職員を対象に救急蘇生法の講習を受け緊急時の対応の訓練も行った。警備会社と契約し緊急時の体制を作っている。また、事故ヒヤリハットにて改善につながるよう努めている。
VII-1 就労意欲の醸成	非該当。

* 着眼点の項目等を参考に、具体的な実施（達成）の状況や、未実施の場合はその理由など評価における根拠とともに、今後の改善計画（方針）なども記載してください。

* VII-1 「就労意欲の醸成」欄は、授産施設のみが該当します。